

頭と足

平林初之輔

青空文庫

一

船が港へ近づくにつれて、船の中で起った先刻の悲劇よりも何よりも、新聞記者である里村さとむらの心を支配したのは、如何にしてこの事件をいち早く本社に報道するかという職業意識であつた。

彼は、社へ発送すべき電文の原稿はもうしたためている。しかし、同じ船の中に、自分の社とふだんから競争の地位にたっているA新聞の記者田中たなかがちゃんと乗りあわせて、矢張り電文の原稿は書いてしまつて現に自分のそばに、何げない様子をして自分と話をしている。その様子は如何にも自信に満ちた様子である。港

には郵便局は一つしかない、従つて送信機も一つしかない勘定だ。どちらかさきに郵便局へ着いた方がそれを何分間でも何時間でも独占できるのだ。郵便局は波止場から十町もはなれているという。して見れば体力のすぐれている田中がさきにゆきつくことは必定だ。

里村は気が気でなかった、波止場はすでに向うに見えている。彼はいても立つてもいられなかった。ことに、自分の体力に信頼しきつて悠然とかまえている田中のそばにいるのがもう辛棒できなかった。彼はふらふらとデツキのベンチをたち上つて船室へ降りていった。

田中は安心しきつていた。彼は靴のひもを結びなおし、腰のバ

ンドをしらべ、帽子を眉深^{まぶか}にかぶり直し、万が一にも手ぬかりのないように、いざといったらすぐに駈けだすことのできるように用意していた。三四分もたつと里村が船室にもいたたまらぬと見えて、矢張り浮かぬ顔付をしてデツキへ上つて来た。競争が切迫するにつれて二人は緊張しきつてもう一言もものを言わなかった。

二

船はいよいよ波止場へついた。人夫が船を岩壁へひきよせる間も、デツキから波止場へ厚い板でブリτζがかけられる間も二人は、気が気でなかった。

やがて船客は降船しはじめた。田中は第一に船を降りて、韋駄^{いだ}天^{てん}のように駈け出した。里村はそれにつづいた。

田中が郵便局へ息を切らしてついた時には生憎^{あいにく}く、町の労働者風の男が、電報取扱口へ、十枚ばかりの頼信紙を出しているところであつた。その男は、何か不幸な事件でもあつたと見えて、あとからあとからと頼信紙へ同文の電文をつけている様子だった。

田中は、まだかまだかと督促^{とくそく}してもどかしがつた。

「親戚に急な不幸がありましたな」^{くだん}件の労働者は気の毒そうに田中にわびた。

里村がそこへ息せききつてかけつけた。

二人はものの四十分もまちぼうけをくつた。里村はもうあきら

めているらしかったが、田中はしきりに時計を出して見て、「ちえっ」夕刊の締切に間にあわん。としきりに舌打ちした。

やつのことで労働者は二人に恐縮そうにお叩頭じぎして出ていった。

田中は入れかわって電報取扱口にたった。

里村は田中の原稿を見て、「たつぷり二十分はかかるね」とも
うあきらめながら言った。「一寸その間に用たしをして来るよ、
どうせ僕の方は夕刊にまにあいつこはないのだから」と云いなが
ら彼は出ていった。

道の二町もいった頃彼はさっきの労働者にあつた。

「どうも有り難あがとう、お蔭で僕の方は夕刊にまにあつた、これは少

しだが」

彼は十円札をつつんでわたした。

「どうも相すみません」まださっきのつりものこつておりますが、あなたの電報の分が至急報で五円三十銭と、それにわっちゃあ、親類じゅうへ合計十三本も用もない電報をうちましたぜ」

「そりやどうも有り難う、おかげであの男の方は夕刊に間にあいつこなしだ、なにつりはとつときたまえ」

×

×

×

×

「要するにあの場合、船から一番先きに降りるものは誰かつてこ
とに気がついたのは吾ながら感心だて、船員のうちには必ず船客
より先へ降りる者があるつてことに気がつくなんぎ頭のいいもん

だなあ。お蔭で来月あたりは昇給かな。田中の奴、おれが息せききつてかけつけたと思つてゐるが、豈計らんや、俺は、煙草をふかしながら見物のつもりでやって来たのだ。あんまり氣の毒だから局の前でちよつと駄足のまねをして見たがね。氣の毒といえば、このことをすぐに奴に知らせるのもあんまり氣の毒すぎるから、一つあいつの女房のそこへでも電報を打つて俺の頭のよさを自慢してやろうかな」

里村は途々^{みちみち}ひとり考えて悦に入つた。

(一九二六年二月号)

青空文庫情報

底本：「『探偵趣味』傑作選 幻の探偵雑誌」光文社文庫、光
文社

2000（平成12）年4月20日初版1刷発行

初出：「探偵趣味」

1926（大正15）年2月号

入力：鈴木厚司

校正：土屋隆

2004年12月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

頭と足

平林初之輔

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>